

# 駄知

-DACHI-

駄知町では室町時代からやきものを焼き始めました。駄知の地形は盆地なので、斜面を利用してたくさんの登り窯を築くことができ、多くのやきものが焼かれました。どんぶりの生産が盛んな地域で、大きな製陶所から小さな窯元まで、現在70軒以上の会社があります。



今回は駄知地区を紹介するぞ！



私たちのまち・土岐市はやきものまちです。『みのやき博士』『みのやき志野ちゃん』と一緒にやきもの知識を学んでいきましょー。

美濃焼振興室 (☎98312)

## 駄知の窯元

### カネ定製陶さんに聞いてみました！

どんぶりの生産が盛んだ駄知町。今はどんな様子なのかな？



#### カネ定製陶株式会社

- 定園窯 -

籠橋 亮介 さん

お話を聞かせてくれたのは

土岐市駄知町 2467 番地  
0572-59-8762

<http://www.kanesada-seito.com>

Q 今もどんぶりを作っているの？  
作っています。ロングセラ―はやはり「どんぶり」です。現在は小さな物から大きな物まで、色んな種類のうつわを作っています。楕円や四角など、変わった形のうつわも作ることが出来ます。



カネ定製陶では1日に12,000個くらいやきものを作ってるんだって！  
スゴいなあ～！

Q なぜ駄知でどんぶりを多く作っていたの？  
以前は土瓶とか袋物(徳利など)も多かったようですが、いつしか袋物は下石へ、駄知はどんぶりになりました。その理由は、亀吉井(幕末)・赤井(明治)という歴史的に有名などんぶりを作っていたので、戦後の分業化の流れで、「じゃあ、駄知はどんぶりを主力に」となったのではないかなあ。うちでは昭和30年ごろからどんぶり製造が増えた聞いています。

これが亀吉井じゃ。現代のものより分厚くて平たい形しておるぞ！



## 市長の部屋から

8月23日(木)

市内に7つある陶磁器工業協同組合に加盟するメーカー89社が、約3,700点の新商品を並べた展示会「美濃焼ニューコレクション土岐2018」がセラトピア土岐で開催されました。会場には商社のバイヤーなどが詰め掛け、流行や売れ筋商品などを見定めていました。



陶磁器業界の皆さんにおかれましては、変化の激しい市場の中で、日々挑戦を繰り返しながら新たな商品開発に取り組まれていると思います。

本市は、全国の皆さんに美濃焼とその主産地である“土岐”が結び付くよう、ポスターやチラシを使った宣伝のほか、ウェブ動画を配信したり、陶磁器関連のイベントでは本市の名前が入った買い物袋を提供したりするなど、さまざまなPRを繰り返し行ってきました。

日本一の陶磁器生産量を誇る本市は、まさに陶磁器産業によって発展してきました。今後も同産業が大いに盛り上がることを願い、力を尽くしてまいります。  
土岐市長 加藤靖也

